



(6) 興昌寺山古墳

せんこくが のこ えんぶん
線刻画の残る円墳

Q1 興昌寺山古墳とは、どんな古墳なの？

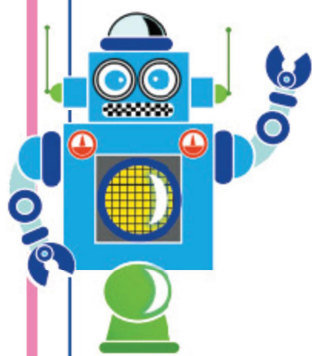
A1 有明浜に近い興昌寺山の頂上部の標高75mのところにあります。この古墳は、6世紀の終わりごろにつくられた円墳で

あると考えられています。

よこあなしきせきしつ
横穴式石室があり、天井には3つの天井石が残されていますが、他は破壊されて失われています。予想される石室の大きさは、全長約7.8mでげんしつ
玄室の長さは約4.4m、玄室の高さは約2.1mです。



現在の興昌寺山古墳



Q2 興昌寺山古墳からは、どんなものが出てきたの？

A2 ふくそうひん
副葬品などはほとんど出てきておりませんが、玄室の横壁の石と天井の石に、葉と舟と思われる線刻画が描かれています。

葉は、最大幅が12.7cmで、葉の先が下になって描かれています。また、舟の胴体を表現していると考えられる線刻画も残っています。



葉の線刻画



舟の線刻画

